たより けやき

No. 6 2016年9月30日

発行　社会福祉法人けやき福祉会　設立準備会
住所　新潟市西区上新栄町3-4-83
電話　０２５－２６０－７７９８
※　このたよりは、会員の皆さんに発行しています

～ここは地域の「もうひとつのわが家」～

燕市にある**高齢者総合生活支援施設「はな広場」**の見学に会田さんと大岩ご夫妻と一緒に行ってきました。

ここは私の「高齢者施設」のイメージを一新する、まさに驚きの連続でした。あまりに「居る」「暮らす」ことが自然で、自分の家にいるようだったからです。

民家の小路から雑木林の庭を通って、いつの間にか「はな広場」の玄関へ。開放された扉から木のぬくもりの玄関ロビーへ。静かで落ち着いたこの場所が、３ユニットのミニ特養（29人定員）と小規模多機能ホーム（登録定員29人通い18人、宿泊６人）の中心です。

特に私が感心したのはミニ特養でした。大きな台所と居心地の良い居間から、それぞれの個室があり、個室には入居されている方の今までの暮らしがありました。

お昼前のひと時、台所からは職員の方が料理をする音や姿が見え、いい香りが漂う中で、皆さん思い思いにゆったりと過ごされていました。ご家族は「おばあちゃんちに行ってくるね」とここを訪れるということでした。

住み慣れた地域で暮らす、おむつをしない、居間で手作りのあたたかな食事を一緒に食べる、それぞれの生活のペースが尊重される、そして自分の部屋には今までの暮らしがある。

「はな広場」のコンセプトの実現には、施設長はじめ職員の皆さんが日々研鑽を重ね大変な努力をされているのだと感じました。私たち「けやき会」も先輩を見習って五十嵐地域の「もうひとつのわが家」を目指します。

石附幸子

常に開かれている玄関

木のぬくもりのあるロビー

101歳の女性が楽しみに昼食を待っている

わが家のドアを開けて入るようなユニットの入り口

おいしそうなにおいが漂う昼食作り

夕やけこどもけやき食堂

９月１日（第１木）寄付された食材…冬瓜、ジャガイモ、枝豆、オレンジジュース、玉ねぎ、ワカメ、梅干し、「メニュー」子ども達のリクエストで焼肉・冬瓜とカニのくず煮（家庭ではあまり食べない食材で、この季節ならではの地物産、食べ残す子はなし❤）・枝豆とウインナのポテトサラダ等。この日も行政の方などの見学と新しく参加の方がたくさんありました。いつもは大学生のボランティアさんなのですが、来春大学で保育専攻予定の高校生が参加してくれました。(^-^)

９月20日（第３火）9／4に寺尾中央公園で坂井輪まつりのイベントでそうめん流しがあり、その６メートル程の竹セットをいただき、けやきの子ども食堂でもそうめん流しやる予定でした。しかしあいにくの大雨で中止。巨峰やミニトマト、凍らせたゼリー等も流す楽しい計画でしたが残念でした。次回は寒くて無理でしょうね…。子ども達が帰りに「また来るよ」とピカピカの笑顔でさよならしてくれるのが何よりです。　会田

名付け親が言う「こども食堂」は「こどもの食堂」ではない

湯浅誠　｜社会活動家・法政大学教授　HP より

とっつきやすさが売り

こども食堂が急増している。

報道によれば、全国で 300 か所以上が確認されている。しかも、うち 285 か所はこの２年間の開設だというから、ちょっとしたブームと言ってよいだろう。

こども食堂のメリットは、なんといってもその**「とっつきやすさ」**にある。

広がり続ける子どもの貧困に心を痛めている人は多い。

「親の責任だ」と非難していれば子どもたちの状況が改善する、というわけでもない。

少子化が進む中での貧困率増加は、日本の将来像にも影を落とす。

教育は大事だが、勉強を教えられる自信はない。

何かできないかと思うが、何をすればいいのかわからない。

ネーミングが９割

同時に忘れてならないのが「こども食堂」というネーミング。

「こども」「食」という“必殺アイテム”を並べたこの簡潔なネーミングが、誰のために何をするかをこれ以上ない形で明確に表わす。

こども食堂の広がりは、このネーミングを抜きには語れない。

その名付け親が、**近藤博子さん**だ。

「気まぐれ八百屋だんだん店主」の肩書をもつ、東京都大田区にある小さな八百屋さんだ。

彼女が「こども食堂」の呼び名を使い始めたのが 2012 年。それ以前にも同様の取組みはあったが、こども食堂という概念は、ここから生まれた。

その近藤さんが今、「こども食堂」ブームを歓迎しつつ、懸念も示す。

それは**「こども食堂は、こどもの食堂ではない」**ということ。

貧困家庭の子ばかり集めるところ？

近藤さんがもっとも懸念するのは「こども食堂というと、貧困家庭の子どもたちを集めて食事をさせるところと思われてしまう」こと。

それが、広がりを生む半面で、反発も生んでしまった。

いわく**「貧困家庭の子ばかり集めるなんて、子どもがかわいそうじゃないか」**

いわく**「子どもの貧困は親の責任。他人が介入すべきではない」**

違う、そうじゃない。

もともとその定義が誤解を生んでいる、と近藤さんは言う。

近藤さんの定義はこうだ。

「こども食堂とは、こどもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」。

それだけ。

「こども」に貧困家庭という限定はついていない。

「こどもだけ」とも言っていない。

大事なことは、子どもが一人ぼっちで食事しなければならない孤食を防ぎ、さまざまな人たちの多様な価値観に触れながら「だんらん」を提供することだ。

だから、**一人暮らし高齢者の食事会に子どもが来られるようになれば、それも「こども食堂」**だ。

子どものための、子ども専用食堂ではない。

«以下、次号へ続く»

施設に対する私の想い

私は、介護福祉士の実習で大小さまざまな施設を垣間見て来ました。又夫の両親、自分の両親がお世話になった施設は毎日行って、一緒にご飯も何度かいただきました。

いちばん近い所では「からし種の家」・マナの家が理想です。代表の山崎ハコネさんの理念が揺るぎない信念があります。

義父がお世話になった時、表情が無くしゃべることもしない父に父が望むことをさせてくださいました。写真家であったので、個展をした時の写真を施設の居間にたくさん飾り写真展をしました。父の目が輝き始めました。俳句や短歌も以前書いていましたから、広告の裏側を短冊状にして父に声をかけてくださり、父は一日にデパートの紙袋いっぱいに短歌をしたため、話すようになりました。

大きな施設では鍵付きで悲しそうに出入りのドアに立ち、言葉はありませんでした。介護度５の認定を受け父はなにも、もうわからない人になったと誰からも思われていました。でもでも、寄り添うこと、人として長い人生を歩んで来たことを尊敬されるとき、少しでも良い方向に人は変わることができるのです。私が勝手に師匠と仰ぐ「はな広場」の川村施設長さんも、もう一つの我が家のコンセプトを実現維持するために、職員一丸となり大変な努力をしていると感じます。

職員教育が重要で、職員を大事に育てているから利用者に対しても優しく穏やかに接する姿が見えます。身体的にも認知度も重い介護度でも尊厳を守るということが絶対的なコンセプトです。皆さんのご協力を重ねてお願いして自分が入りたい施設、地域の人が足を運んでいただけるコミュニティの場を作っていきましょう！　会田　きよみ

１０、１１月の会員会議

開催日：１０月　５日（水）、１０月１３日（木）
１０月２７日（木）
１１月　２日（水）、１１月１７日（木）
１１月２４日（木）

会　場：　上新栄町集会所

時　間：　午後７時から８時３０分

※当日は会場費 200 円が必要です

※参加はご自由ですので、ご興味のある方、一緒に活動していただける方は、ぜひ一度ご参加下さい。

会員の皆様の声

地域で生き続けるためには　土屋　容子さん

障害のあるこどもの進路は一部の例外を除き、学区「外」の生活になることが多い。学区というのは、ご存じのとおり、歩いて通学できる小、中学校の距離になるが、学区「外」はちょっと遠い地域へ歩いてはいけないところへいくことになりがちである。

障害のあるこどもが住み慣れた地域で交流することは、そういう意味では少し縁遠いように感じている。

（障害をもつ）わが子の場合、保育園は学区に近いところに通えたが、小学校からは車で片道 10 キロかけて学区「外」の特別支援学校に通った。（ちなみに特別支援学校は、市外から通ってくるお子さんも珍しくない。）一般的に特別支援の小学部に入学すると、特別支援中等部、高等部と続き、そして、希望すれば地域での施設や事業所にいくことになる。よって、地域での暮らしはここで、果たされる可能性がでてくるわけだが、ここに至るまで地域で　我が子らの存在を知られることは稀である。圧倒的に地域でふれあう経験値が少ないからである。

そんな現実があるためか、所属している特別支援学校では、地域交流行事があり、学区内での学校行事が計画されている。ただし、こちらが希望しても先方（学区の学校）から受け入れ許可をいただかないと、訪問できない現実がある。

我が家の場合、小学校は希望し、かなえられたが、中学は諸事情から参加は見送られた。

ところで、我が家発信で地域での交流を考えてみる。近所でこどもと車いすで散歩をする日々がある。すれ違う人は温かく見守ってくださり、「こんにちは」と挨拶をしてくださる。それは、遠くもなく、近すぎもない。こんな距離感に　ふと安堵する私がいる。

将来、けやき会での暮らしの中で、どんなスタイルで我が子はお世話になるか、まだわからないが、話し合いに参加していく中で、私たちが希望する「地域での交流」にきっと近いものができるはずと確信している。

もちろん、将来、住み慣れた家や近所で保障された生活をしたいのは、障害のあるなしに関わらず、おそらくどんな人も一緒であろう。

けやき会での方向性は、利用者さんご家族をはじめ、そこで働く職員さんも大切にし、食に対して安全と安心と慈しみをもつ。

この提案は　地域の人たちへ、未来への大きな架け橋になるはずである。

それは、人として豊かに生きていくことの希望への道なのだ。

会員の皆様の声（前頁より）

けやき会によせる私の思い　　河内　香織

私がはじめて、けやき会の会議に参加させていただいたのは５月下旬でした。その時に「つくる」ということは大きなパワーが必要だと感じ、けやき会は大きな目標に向かって進んでいるパワフルな会という印象をうけました。

その後は、会議に参加するたびに、人と人と地域のつながり・ふれあい・温かさを感じています。また、けやき会に参加する方々の豊富な経験、今まで知らなかった知識や情報を学べることが楽しくて充実した時間となっています。

私も、お手伝いできるように知識を広げてパワーを蓄えようと久しぶりに講義を受けてきました。（途中は睡魔との闘いもありました…）

※右上に続きます

～編集後記～

■衝撃の告白をしますと、いつも　何もしないで（！）このところだけ長々と書いてしまう私・・・。

このたび会田さんから「会員の声を」と指令が出ました。愚行を重ねる私は、謝罪の意味を込めて書いてみましたが、結果は・・・・うーん、何とぞ、ご容赦ください。

このところ、新潟のお天気は　秋と夏の季節をいったりきたりしているようで、寒かったり、ムシムシしたり。体調管理が大変ですが、皆さん、くれぐれもご自愛ください。　　土屋　容子

■祖母が他界して二年が経過しました。祖母は東京の上野で生まれ育ち、戦争により 20 代後半で新潟に疎開してきました。

私は幼い頃から祖母より戦争の悲惨さを聞かされ、あまりに生々しい話を聞くのが嫌で、思春期の頃は祖母を避けて友人とバスケを楽しむ方を優先しました。

しかし、祖母の思春期・青年期はまさに戦争真っ只中。東京大空襲により多くの友人を失っています。祖母の青春は、戦争に奪われていました。

私は戦争を知らない世代です。しかし戦争を、その悲惨さを教えられた者です。そして祖母から教えられた話は、私の娘にも伝えるようにしています。

祖母の教えを次世代に残したい。

先日の彼岸にお墓参りをし、そう、祖母に語りかけてきました。　　板垣　龍介

けやき福祉会の具体的な内容が決まっていくことに毎回ワクワクしています。会田さん、高見さん、けやき福祉会に関わる皆様、地域方々から集まった大きなパワーで作られる「社会福祉法人けやき福祉会がとても待ち遠しいです。

寄付ご協力のお願い

「夢」が一歩一歩確実に「カタチ」に近づいています

けやき会では、新たに役員体制が整い、設立する社会福祉法人の名称も「社会福祉法人けやき福祉会」とすることが決まりました。これからも、建物の設計をはじめとして具体的に決定すべき事項があり、それらを確定させることをとおして組織・体制の整備を行っていきます。

まず、優先して取り組むべきことは、皆様からの寄付金を早く目標である１億円に到達させることです。現在、会員及び会員以外の多くの方から総額で約８，０００万円の寄付金や寄付金の予約が寄せられています。

新潟市の介護事業の公募も 12 月中に発表される予定ですし、同時に社会福祉法人設立の申請を行います。私たちの願いを実現するためには、まだ２，０００万円ほどが必要になります。なにとぞ皆様のさらなるご協力とご支援をお願い申し上げます。

◇呼びかけ人一同

寄付金振込口座
郵便局　口座番号：００５８０－０－１０２５４９
「社会福祉法人けやき会」設立準備会
代表　会田きよみ
第四銀行　小針支店
普通預金：口座番号　１３４５９８９
社会福祉法人けやき会設立準備会
代表　会田きよみ
※大光銀行、ろうきんでも受け付けております